

「事業名：森林を核とした地域協働型人材育成プログラムの構築-あぶくま田村モデルフォレスト構想

宇都宮大学 連携市町村：田村市

現地拠点：田村市都路町古道字蒲生河原26-1 NPO法人あぶくま山の暮らし研究所内

事業のポイント

本事業は、将来のあぶくま地域における森林域の基本デザイン構築を目指すものである。森林を単なる施業や木材生産の対象としてだけでなく、地域の暮らしや環境、防災、生業、文化の基盤となる「公共的資源」として捉え直す。そのために、従来のように森林所有者や林業関係者のみで森林を管理するのではなく、民・学・産・官の地域総ぐるみで森を支える体制を志向する。専門知識を基盤としつつ、現場における多様な主体との利害調整、合意形成、対話、協働設計を自ら担い、「森林を起点に地域を動かせる人材」を育成するとともに、地域協働の基盤を構築することを目的とする。本事業の推進は、本学が有する専門教育の実質化と、学生の実践力涵養に直結するものである。これにより、田村市における課題である「森林域の管理を担う地域人材の育成」と、「本学学生の教育内容の高度化」の両立を実現する。

人材育成・定着計画及び目標

(1) 地域に根付く大学生等の人材育成

田村市の森林をフィールドに、宇都宮大学を中心とした実践的な教育プログラムを展開する。一部については単位認定を伴う正規カリキュラムとして、学生が地域のステークホルダーと対話・協働する5つのテーマを実施する。

(2) 地域住民向けの人材育成(学習機会提供型プログラム)

大学の「復興知」を学生教育にとどめず、田村市の地域住民や子供たち、社会人へと還元し、モデルフォレストを支える地域の担い手を拡大する。

2026年度の活動内容

1) 本学学生単位修得プログラム

森林計画学および森林計画学実習：田村市森林整備計画に基づく現地見学および森林計画の具体的内容に関する検討を実施

森林政策学演習：地域における林業経営や木材の流通について、実践的な学びのフィールドとして現地見学および課題の検討を実施

森林科学総合実習：PBL(課題解決型学習：Project Based Learning)科目として上記の取り組みを実習のプロジェクトテーマに設定し、学生で構成されるチームが能動的に課題解決を実践していくアクティブラーニングを実施

森林インターンシップ：田村市における森林管理・林業に関するインターンシッププログラム

2) 現地人材育成プログラム

森林情報の基礎と立木調査の方法

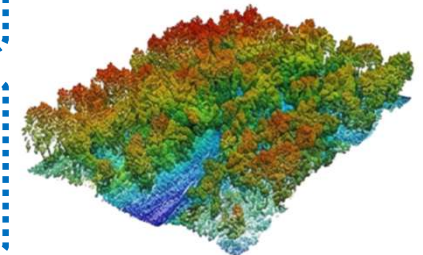
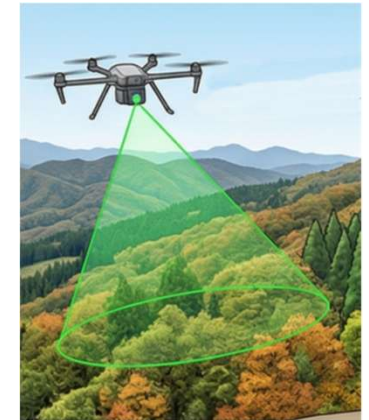
森林調査・目標林型に向けた施業の検討会

点群データを基盤とする次世代の森林情報を活用した森林管理・林業経営についての講習・実習

広域ALSデータによる森林管理・森林評価・ゾーニング

ドローンを活用したULS、UAV/SfMによる森林管理

TLS(地上型レーザ)を活用した森林管理



取組によって得られる成果

本事業内で組織化した民・学・産・官連携であぶくま田村モデルフォレストコンソーシアムを核に相双地域の他の浜通り市町村に展開していくことで、あぶくまモデルフォレストの構築を目指す。森づくりは100年の大計であり事業期間の活動のみで森林そのものに対して事業の効果を発揮させることは困難である。本事業の成果によりステークホルダー間で共有できる長期ビジョンを策定し継続的に持続可能な森林管理を実現できるよう2031年以降も活動を維持継続する。その活動の中で企業参加による森づくり、森林の炭素吸収量のクレジット化、森づくり基金の創設により財源を確保し、経済的にも自走できる活動とする。